

グリーン四国

四国森林管理局



高知市丸ノ内1丁目3-30
 TEL 088-821-2000 四国山の日
 FAX 088-821-4834
 ホームページアドレス <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp>
 電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1065 2008年12月号

「^{もり}こうちの森林の宝を見つけよう」

～「四国山の日inこうち」を開催～ 【関連記事は2頁へ記載】



四国の森づくり高知県実行委員会の塩田実行委員長による開会挨拶



左：中山四国森林管理局長 右：^{とご}十河高知県副知事

地域材利用促進を

「こうちの森づくりに関する
 覚書」を締結



木材利用分科会の様子



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。



十一月一日、二日の両日、高知県香美市で、四国の森づくり実行委員会、四国の森づくり高知県実行委員会主催による「四国山の日inこうち」が「こうちの森林の宝を見つけよう」をテーマに開催されました。

このイベントは、森林の持つ多面的な機能を十分に発揮させていくため、森林整備、木材利用や森林環境教育活動を地域住民、森林ボランティア、関係機関等と連携・協力して取り組むこととした、平成十六年十一月の四国4県と四国森林管理局による「四国の森づくりに関する

地域材利用の促進を
「こうちの森林の宝を見つけよう」
 「四国山の日inこうち」を開催
 〈指導普及課〉



「四国山の日賞」の受賞者の皆さん

共同宣言」に基づくものです。

今年で、五回目となる「四国山の日のイベント」では、森林整備、森林環境教育や地域材の利用促進を目的とした分科会を行うとともに、四国4県の住民をはじめとする多くの人が参加する「参加型」のイベントとして、①四〇年の森・一〇〇年の森見学会、②ネイチャーゲーム、③木造施設紹介ツアー等のほか、地域からの協力をいただいた地元産品の販売等を行いました。

また、「四国山の日賞」、「森林

の俳句コンテスト」等の表彰と、本年、高知県と当局との間で締結した「こうちの森づくりに関する覚書」の締結セレモニーを行いました。

その結果、二日間において、延べ八〇〇名余りの参加を得ることができました。

この取組を通じて、四国4県の豊かな生活環境の実現、森林資源の循環利用など、森林の多面的機能の高度発揮の重要性や安全で安心な生活環境を創造して行くためには、地域材利用が重要であることに對する理解と関心の醸成を図ることができました。

第四回森林の俳句コンテスト入賞者決まる

〈総務課〉

今年度も、六月一日から九月十二日まで小中学生を対象に、森林・林業に関する俳句を募集したところ、四国四県等から一二五枚、三千百九十句と多数の応募があり、選者二名による厳正な審査の結果、入賞者が決まりました。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介します。



「四国山の日inこうち」での入賞者の表彰

小学生の部

四国森林管理局長賞
 西予市立高川小学校
 六年 川渕 愛子

「アラカシの幹にだきつくこけがおる」

最優秀賞

三豊市立二ノ宮小学校
 五年 山路 哉太

「汗かいて枝打ちしている祖父の冬」

優秀賞

八幡浜市立松蔭小学校
 三年 山本 智尋

「おじいちゃんきでとりのすつくつてる」

八幡浜市立松蔭小学校
 五年 二宮ころ

「木々までもおうえんしている陸上部」

八幡浜市立双岩小学校
 四年 井上 高鋭

「ぶなの木の落ち葉がつもるひみつきち」

中学生の部

四国森林管理局長賞
 愛南町立西海中学校
 三年 清家 芽依

「さえずりや巣箱の口はハート型」

最優秀賞

高知県本山町土佐町中学校
 組合立嶺北中学校
 一年 川村 比佐

「夏の朝姉と二人で森歩く」

優秀賞

西条市立東予西中学校
 三年 越智由紀子

「新緑や風のおいを感じつつ」

馬路村立馬路中学校
 三年 西山 大夢

「雪が降り山から聞こえる鹿の声」

香南市立夜須中学校
 一年 内村 圭喬

「頂上はずごく寒いよきりの風」

第二回国有林モニター勉強会を開催

〈企画調整室・指導普及課〉

十一月一日と二日の両日、「第二回国有林モニター勉強会」を開催しました。八月の勉強会に引き続き、第二弾の今回は、高知県香美市の「四国山の日inこうち」のイベントと、指導普及課による「地域材発見ツアー」への参加を通じて森林管理局の取組について理解を深めて頂くことを目的に開催し、一日は十一名、二日は十名の国有林モニターの方々に参加頂きました。



「称名寺」の内部



「称名寺」で説明に聞き入る国有林モニターの皆さん

一日は、高知工科大学で行われた三つの分科会、「①森林整備分科会（テーマ・山村再生をはかるセミプロ等の取組み）、②森林環境教育分科会（テーマ・行こうこうちの森へみつけよう山の宝）、③木材利用分科会（テーマ・地域材を使った住宅建築がなぜ進まないのか）」において、国有林モニターの方も、「昔、自宅を建築する際にツガを使ったが、今度改築する際にもツガを使うか。」とパネリストに質問し、「現在はスギ・ヒノキが主流ですね。」と回答を得るなど、分科会での白熱した議論に積極的に参加されました。

二日の午前には、甫喜ヶ峰森林公園での式典に参加したほか、参加団体のブラスや公園内を散策し、秋の森林を楽しみました。

午後からは、「地域材発見ツアー」に参加し、高知市升形にある「称名寺」を訪れ、その建築の設計に携わられた山本

長水氏（山本長水建築設計事務所一級建築士）に、高知県産のスギ、土佐漆喰、土佐和紙を使った「土佐派の家」について説明を頂きました。

山本氏からは、「高知県には木材、土佐漆喰、土佐和紙と優れた地場の産物があり、地域の恩恵に浴した建物を造りたいという気持ちから、土佐の自然素材を使う「土佐派の家」を設計している。特に、この「称名寺」は、通常ヒノキを使用する構造物の部分にスギを採用しており、スギでも構造物として使えることを示したかった。」との話がありました。

二日間を通して、国有林モニターの方々には、四国森林管理局が多様な関係者と連携して森林づくりに取り組んでいることや、地域から産出された木材を利用する意義などに触れていただけたのではないかと考えております。

五ヶ年間の実績を踏まえ 第一回四国山地緑の回廊あり方検討委員会開催

〈指導普及課〉

四国森林管理局では、設定から五年を経過した「四国山

地緑の回廊」の維持・管理及び整備等の今後のあり方について検討を行う委員会を、十一月十四、十五日の両日開催しました。

「四国山地緑の回廊」は、野生動物植物の生息・生育地を結ぶ移動経路を確保することにより、個体群の相互交流を目的として平成十五年三月に設定しましたが、設定後のモニタリング調査において、ツキノワグマの生息・繁殖が確認されたり、ニホンジカの生息数の増加による樹木等への食害が顕在化するなど、回廊を取り巻く環境は著しく変化しました。

このため、四国森林管理局では、これまでの森林調査や野生



モニタリング調査箇所の確認



意見交換会の様子

鳥獣の生息実態調査に関するモニタリング調査結果や取り巻く環境の変化などを踏まえ、専門分野から、今後の緑の回廊のあり方についての意見を聞くこととしました。

第一回の検討会では、今年度のモニタリング調査箇所の確認と、二日目に意見交換を行いました。

各委員からは、調査手法の検討や猛禽類の調査の必要性など多くの意見が出されました。次回の検討委員会は、剣山地区で行い、第一回検討委員会での意見を含め、意見集約を図る予定です。



高知県立牧野植物園

森林ボランティアの一步に 活動入門講座を終えて

〈指導普及課〉

十一月十四日、「森林ボランティア活動入門講座」(延べ三日間の三日目)を開催しました。

午前は、木材利用について学ぶため、最初に、高知市升形にある「称名寺」を訪れ、建築の設計を手がけた山本長水氏から解説をしていただきました。受講者は、土佐スギ、土佐漆喰、土佐和紙といった伝統的な素材・手法をベースとして、現代の感覚と快適さに合わせて作られた木造建築物を間近にし、ス

ギの持つ柔らかい雰囲気、明るくて心地よく音の響く空間に感嘆の声をあげていました。

続いて、「高知県立牧野植物園」を訪れ、始めに建築の解説をしていただきました。

壁・天井はスギ、床はヒノキを使用し、五台山の森の中に溶け込み、台風の被害から免れることを建築のコンセプトに、特に天井を支える樽木の長さがすべて違うこと等については、幾度となく牧野植物園を訪れている受講者も「初めて気がついた」、「見方が変わった」と感心の声しきりでした。また、植物についても解説していただき、牧野富太郎博士の偉業に驚嘆していました。

午後は、最初に、森林ボランティア活動で特に必要となる救急法について、高知市消防局の指導の下、実際にAED(自動体外式除細動器)を使った心肺蘇生などの訓練を行い、早い応急手当の重要性について実感していました。

続いて、この講座を受講しての意見交換会を行いました。その中で受講者から、「非常に充実した講座内容だったが、受講者が少なかつたのが残念であり、もっとPRすべき」、「間伐



救急法の訓練

体験だけでなく、植樹から伐採までの森林を育てることの大切さを実感できる現場の見学や、森林の良さを実感できる森林散策などの講座があればもっと良かった」との意見が出されました。また、「今後は、森林ボランティアなど森林に関するイベントに積極的に参加したい」との力強いことばが述べられました。最後に、受講者全員に修了証を授与し、終了しました。

この講座は、団塊の世代を対象として、平成十九年度に引き続き実施し、今年度は六月に座学(森林・林業の基礎知識、森林ボランティア活動の実践例)、九月に実習(林業機械の取扱いと間伐体験等)、十一月に実習及

び座学(木材利用及び救急法等)を行いました。受講者の人数は、十九年度の一〇名に対し、二〇年度は三名と、募集のPRに課題を残しました。

「木づかい推進月間」で木の良さをPR

〈企画調整室〉

人と環境に優しい木材の特性や、地域の林業・木材産業の活性化、森林の多面的機能の発揮にも貢献する木材利用の意義について、国民の理解を高めることが重要となっています。

林野庁では、国産材利用の意義を広め、需要拡大につなげていくための国民運動として「木づかい運動」に取り組んでおり、平成十七年度から毎年十月を「木づかい推進月間」として集中的な活動を行っています。

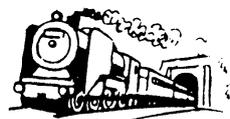
平成二十年度においても、地域材の生産・加工・流通に関わる事業者はもとより、関係官庁、地方公共団体や関連する団体・企業・NPO等も含めた幅広い人々の参加の下に、「木づかいシンポジウム」の開催や、特別展

示の実施、各種マスメディア等を通じた広報等、地域材の利用の意義に関する知識の普及及び情報の提供に必要な取組を全国的に行っています。

四国森林管理局においても、「木づかい推進月間」の取組の一貫として、森林組合や企業、などから多くのご協力をいただき森林管理局一階の「森林ふれあい館」において、十月十四日(火)から二十六日(日)まで、四国森林管理局の公共工事等における木材利用取組事例・木製品(日常生活用品)や木のおもちゃの展示を行い、間伐材をはじめとする国産材利用の積極的なPRに努めました。



各地の たより



○各署でのシカ食害 防止対策の取組

三嶺の森をシカの 食害から守ろう

〈高知中部署〉

十月十八日、三嶺に近い白髪山の尾根あたりで「三嶺の森をまもるみんなの会」と、小学生から七十歳までの一般参加のボランティア六十五名が、モミの



木など数種類の樹木にネットを巻き付けました。

この地域の天然林内にあるモミなどの立木や、ササ等の下層植生に、ここ数年ニホンシカによる食害が急速に拡大しています。このままでは、森林生態系のバランスが崩れることが危惧されており、被害の拡大防止のために実施したものです。

当日は、十三のグループに分かれて作業をしました。長さ一・五mのネットを木の幹に巻きつけたり、根張りの部分には留め具を使ってネットを固定したりして、合計四百六十本の木を保護しました。

このネット巻きで、百数十年生きてきたモミの木は、シカの食害から守られることと思います。

今回参加していただいた皆様にお礼申し上げます。今後とも、シカ食害防止活動への一般の方々の参加をお待ちしています。

シコクシラベをシカの 食害から守る取組の実施

〈徳島署〉

十月十九日、剣山国定公園内の国有林（鎗戸林木遺伝資源



保存林）において、森林ボランティア団体「NPO法人剣山クラブ」・「三嶺の自然を守る会」と徳島署員の総勢三十一名で希少種「シコクシラベ」を鹿の食害から守る対策と同公園内に設置されている案内板等の清掃作業を行いました。

剣山見の越駐車場に集合し、作業分担等の説明後、作業現場に向けリフトに乗り出発しました。

山頂での昼食後、「食害対策班」と「清掃班」に分かれ作業を開始しました。

食害対策班は、一班三名構成で七班に分かれ、シコクシラベ一本毎に丁寧に食害防止ネットを巻き付け保護していただきました。

また、清掃班は、同公園内に設置されている看板を水そうきんできれいに磨き、汚れを落としました。

当日は、天候にも恵まれボランティアの皆様と近年になり剣山の絶景の紅葉をながめ

ながら心地よい汗を流した一日でした。

小中学生らがシカ 食害被害地の森林再生

〈安芸署〉

当署では、流域管理推進アクトシヨンプログラムにおいて「西又山自然観察教育林修景作業」に取り組んでいます。

その中で、魚梁瀬小・中学校と連携し、十月二十一日、植樹体験と森林教室を実施しました。

当日は、小・中学校の生徒十四名と教職員が参加し、サポーターとして魚梁瀬森の案内人クラブ、馬路村役場魚梁瀬支所、馬路村教育委員会に協力を頂きました。

まずはじめに、署長から、植樹する木についての話をし、魚梁瀬首席森林官から植樹方法などの説明の後、植樹箇所へ出発しました。

ニホンシカによる食害により、草地状になってしまった山へ、ブナ、コナラ、イロハモミジ計一七〇本を心をこめて植樹し、食害防止チューブでのシカ食害対策も行いました。

その後、昨年植樹した場所に行き、木の成長状況や森林の働きなどの話を中心とした森林教室を行いました。

最後に、生徒の代表が「今日は、良い経験ができました。また、来年も体験したいと思っています。」と感想を述べ、終了しました。

また、学校では、署が調査した植樹した木の生長データを基に、今後の学習に活用してもいくこととしています。



植樹した木への食害防止チューブの設置

親子で木工教室

カブトムシとキーホルダー
作ったよ！

〈ふれあいセンター〉

十月十日、四万十市立中村南小学校四年生三十五名とその保護者三十三名を対象に親子木工教室を行いました。

この教室は、総合学習の一環として、学年ごとに親子がテーマを決めて実践学習することに より、親子のふれあいをより深めることを目的として開催しているものです。

始めに、当センターの職員から「森林の働き」について写真やイラストなどで分かりやすく説明すると、親も子も「あっそうなんだー」と感嘆して、森林の持つ大切さを実感しているようでした。また、今回の木工教室では、



出来上がった作品

参加者が多いことから、前もって希望する作品

を決め、それぞれがカブトムシやキーホルダーを作成しました。初めは、親子共々、ノコギリやナイフを使う仕事もぎこちない様子で心配しましたが次第に慣れ、上手に材料を細工し工夫しながら作品作りに取り組みました。

保護者の中には、子どもよりも夢中になり、汗だくになりながら作業をしている姿が印象的で、二時間あまりの教室でしたが、親子で楽しく触れ合うことができましたようです。親子は、世界で一つだけのオリジナル作品を手にして、満足した様子で、思い出に残る木工体験となったようです。

牛乳パックから作った和紙を手作り「額縁」に飾って卒業記念に

〈ふれあいセンター〉

十月十六日、四万十市立後川中学校三年生四名を対象に、間伐材のスギ板やサクラの枝

を利用した額縁の作成を指導しました。生徒たちは、これまで総合学習の時間に、牛乳パックを再利用して和紙を作っており、この日は、それを飾り付ける額縁を作成しました。

最初に、当センターの自然再生事業等についての学習をした後に、額縁の作成ポイントなどを聞き早速作品作りに取り組みました。

作品作りには先生も参加し、思い思いに熱心に作成していました。額縁のデザインも、それぞれ独創的なアイデアがあつて、材料の使い方も「そうか、こういう発想もできるんだ」と驚かされました。

この日は完成品にまでは至りませんが、卒業までには木の特徴を生かした、すばらし



い「額縁」入りの作品ができあがることと思います。



ユニークな作品

知っていますか？

森林の働き

「総合学習」で講演
〈ふれあいセンター〉

宇和島市立城北中学校では、十月の総合学習の時間に、外部講師を招き、その分野の話聞き、知識を深める学習に取り組んでいます。

今回、「森林の働きを知ろう」の学習が企画され、十月二十一日、一年生一三八名を対象に二時限にわたって秋山所長が講師を務めました。

始めに、ふれあいセンターが取り組んでいる自然再生事業や森林環境教育について説明しま

した。この中で、シカの食害が生徒達の身近な山である滑床山にもあると聞き、大変驚いた様子でした。

続いて、国土の保全、水源かん養、林産物の供給、自然環境保全など森林の持つ様々な働きについて、生徒への質問を織り交ぜながら写真やイラストを使って説明しました。生徒からは「森を助けるのにもお金がいりますか?」「今地球にはどれくらいの森林がありますか?」などの質問があり、事例やデータを紹介しながら理解してもらいました。

最後に、生徒代表から「今日は、森林の学習ができてよかったです」とお礼の言葉があり、森林への関心を深める出前教室となりました。



森の土壌は 秘密がいっぱい

〈ふれあいセンター〉

十月二十九日、四万十市立後川中学校全校生徒二二名が、高知県と愛媛県の県境に位置する地域の最高峰「篠山」の原生林を訪ね、樹木や土壌にふれて自然の素晴らしさを体感したり、森林の仕組みを学ぶための登山を計画し、学校からの要請を受け、ふれあいセンター職員が講師を務めました。

篠山は、樹木の学習をしながら登ることができるよう、歩道沿い十数本の樹木に番号が付いており、生徒たちは、職員からその樹木の特徴や用途などのヒントを聞き、樹木当てクイズを楽しみながら登りました。また、森林の仕組みの学習では、特に土壌に重点を置き、資料や図鑑を使って説明すると、



生徒たちは熱心にメモを取っていました。そして、土を踏みしめたり触ったり、土の中から見つけた生物を観察するなどの体験を通して、森林土壌に大いに関心を持ってもらうことができました。

森の文化祭で蔓かご教室

〈香川所〉

香川県では、多くの県民に森林に親しんでもらおうと、毎年、ボランティアによる「森の文化祭」が行われています。

今年、十月二十六日、高松市の公測森林公園で第一四回「森の文化祭」が行われ、香川森林管理事務所も「蔓かご教室」を担当しました。

当日の朝は、小雨交じりの天候で、はじめは参加者もまばらでしたが、天候の回復に伴って多くの方が訪れました。

当所の「蔓かご教室」も徐々に希望者が増え、「蔓かご」を作るためには、一時間程度の時間がかかるため、時間が足りず、やむなく人数制限をする程の大盛況となりました。



参加者の中には、「ドンクリの形のかご」や「楕円形のかご」が作りたいなどの希望があり、新米講師の職員が頭を悩ませる場面もありましたが、それぞれ個性的な「蔓かご」を編み上げるとうれしそうに持ち帰っていました。生活様式の変化から、今ではあまり使われなくなった「蔓かご」など森の恵みを通じて、森林について知っていただける機会になりました。

高知県立香北青少年の家で森林教室開催

〈高知中部署〉

当署では、十月二十八日に、香北青少年の家に於いて、観音寺市立常磐小学校五年生六十三名を対象に、森林教室と木工クラブ作成教室を行いました。子どもたちは、事前に学校の

授業で、森林環境について学んできていたようで、熱心にメモを取りながら、森林の現状や森林の果たす役割についての話に聞き入っていました。質問の時間には「世界一高い木はなんですか。」「なぜ山にはわき水がでるのですか。」「木はどれぐらい生きるのですか。」「など、子どもたちや先生方からさまざまな疑問が出されました。



木の動物作り

〈高知中部署〉

十月二十九日、高知市立行川保育園にて高知市の保育士二十名を対象に木工クラブ教室



出来上がった作品を手に記念撮影

を行いました。この教室は、高知市保育士会身体づくり部会が行う研修の一環として行われたものです。子どもたちの前ではいつも笑顔の先生方も、ノコギリやナイフを手に、真剣な眼差しで作品を作っていました。見本のクマやフクロウだけでなく、イヌやネズミなどのオリジナル作品も何点か登場しました。最後に、個性あふれる動物たちを手に記念撮影をし、教室を締めくくりました。

自然の恵みで作った作品をおみやげに持ち帰った先生方からは、子どもたちに木で作った動物たちの暖かみを伝えていただけることと思います。



「森ヶ内山ふれあい事業」
 森林ボランティアによる
 森林整備の取り組み
 (四万十署)

(社)高知林業土木協会「しこくの森づくりに参加する会」と四万十森林管理署は、国有林における森林整備等の活動に関する協定を八月二十九日に締結しました。

そこで今回、第一回目の森林整備ボランティア活動が、十月二十九日に行われました。

当日は、「しこくの森づくりに参加する会」から三十二名、四万十署から、サポータースタッフとして、九名が参加し、森ヶ内山三〇三八林班で保育間伐、歩道修理の森林整備活動が行われました。



間伐作業

開会式では、会長から地球温暖化防止のため、森林整備は重要なことであり、そのためボランティア活動により森林整備活動を実施していくことが大切であるとの挨拶の後、窪川首席森林官から安全作業に関する注意事項を説明し、作業を開始しました。

現地では、保育間伐作業に六班、歩道修理作業が一班に分かれて実施しました。

間伐作業は、隣の班との間隔を十分保ちながら、手鋸を使つての伐倒作業です。初めて間伐する方もおり、署のスタッフや手慣れた方の指導をうけながら行っていました。ヒノキが主体の林分で、最初、伐倒には苦勞をしていましたが、フェリンググラブやロープなども使つて、かかり木を処理するなど実施後はきれいな間伐林分となりました。

今回締結した協定は三年間です。今後、引き続き、ボランティアによる、森林整備が実施される予定です。

シリーズ④ 四国局の技術開発

地球温暖化に伴うヤナセスギ等の成長促進効果の検証作業について

〈森林技術センター〉

技術開発の主な取組について、平成二十年度は六回シリーズで紹介しており、今回はその第四弾です。

【目的】

四国局管内の国有林に分布するヤナセスギ等において、年輪解析の手法を用い、肥大成長の気候変動への呼応及び現在までの樹幹蓄積量とその



円板試料

環境価値の推移を明らかにすることで、炭素固定能力を定量的に評価し、将来的に懸念される温暖化による地球環境の悪化への防止対策の一助となるデータを収集してまいります。(高知工科大学・鳴門教育大学・高知大学・愛媛大学と共同研究)

【試験地】
 四国内の国有林内で円板試料採取を実施。

【試験内容】
 樹齢一〇〇年以上のスギから円板を採取し、共同機関において、肥大成長と気象観測データとの関連の検証や成長量の試算等を行っています。

【これまでの試験結果】
 ヤナセスギの肥大成長と気温との相関については、明らかに年輪幅が広がるというものではありませんが、統計処理を行うと、成長開始前の冬期気温が高いほど肥大成長量が大きくなり、とりわけ一〜二月の気温の関与が大きいことが分かりました。この時期の温暖化が進むにつれ、肥大成長量が大きくなることが示唆されました。

また、四国森林管理局が高知大学に委託して実施している魚梁瀬千本山保護林調査報告のデータを用い、ヤナセスギにおける二十年間(一九八六〜二〇〇六)の二酸化炭素吸収量を試算した結果、ヘクタール当たり約三〇八トンのCO₂、年平均で約一五トンのCO₂となりました。これは、二十年前後経過した、平均的なスギ人工林におけるの二酸化炭素吸収量、約一二トンのCO₂を上回る値となっています。

なお、これまでの成果については、今年十月に行われた、第五九回日本森林学会関西支部研究発表会で報告しています。

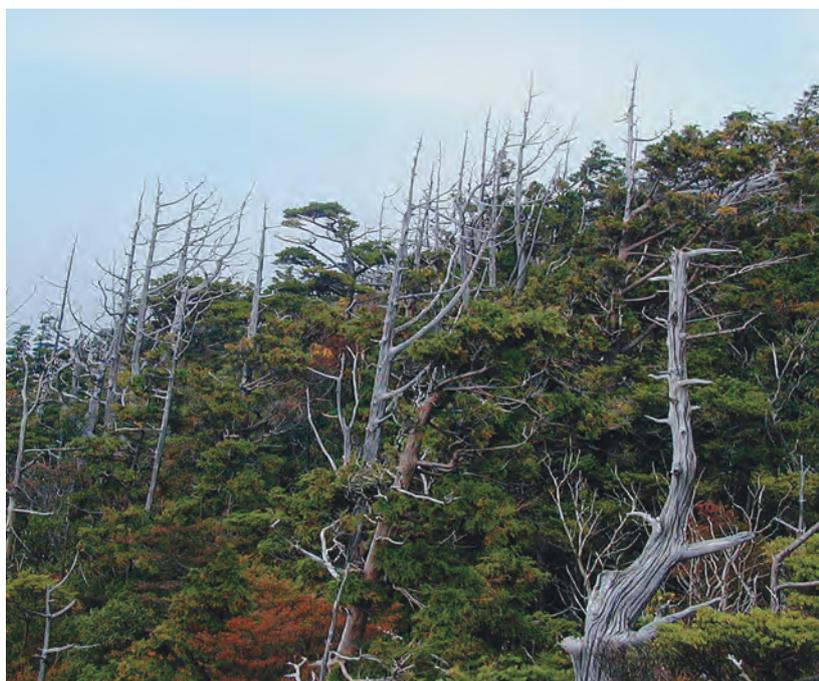
(注) トンCO₂は、温室効果ガスの排出量や、吸収・貯蔵等の量を、二酸化炭素の重量(トン)に換算した単位。本課題では、木材に含まれる炭素量を二酸化炭素量に換算した。

白髪山保護林 (ヒノキ遺伝資源保存林)

【所在地】

高知県長岡郡本山町
白髪山国有林二四林班外

白髪山保護林 (ヒノキ遺伝資源保存林) は、本山町の北部に位置し、白髪山 (二四七〇m)



白骨林の景観美

を中心にして、面積は、二〇八haあり、大正四年学術参考保護林に、平成二年同保護林に変更され、県立自然公園にもなっています。

白髪山はヒノキを主体とする天然林で、北面は成長が良く美林を形成していますが、南東面の頂上付近は気象的要因により樹冠が白骨化したものが多く、ホンシヤクナゲと白骨林の景観美に四季を通じて多くの登山者が訪れています。

山名は、白く光る岩が多くあることに由来するようで、以前は白峨の字を使っていたが、その後、白髪老翁 (猿田彦) を祭ったことから白髪山と呼ぶようになったと伝えられています。

白髪山の天然ヒノキは、江戸城・駿府城の建立にも貢献され「御留山」制度のもとに管理されていました。

また、土佐藩は藩財政の建て直しのため大阪に木材市場をつくり、良質の白髪天然ヒノキを販売したところ市場を独占したと言われており、今でも木材市場跡に白髪橋の地名が残っているそうです。



林内の天然ヒノキ

当署は、この貴重な天然資源保護のため、林野巡視や登山者へグリーン登山を呼びかける等「白髪山のヒノキ」を次代に継承していくこととしています。

登山コースは、四コースありますが、吉野川支流の汗見川を逆上り奥白髪林道から登る冬の瀬コースが一般的で「嶺北ネイチャーハントガイドブック」では中級者用の登山コースにも指定されてお

り、比較的傾斜が緩くケヤキ、モミ、ツガ、天然ヒノキの美林を眺めながら約一時間三十分で頂上にできます。

山頂からは梶ヶ森、三嶺、石鎚山等の遠望もでき、昔本山一揆で立てこもった岩屋跡や風穴を利用した穀物の貯蔵庫跡などがあるほか、古くから神の山として人々の信仰を集めていた山でもあり一度、美林と歴史のロマンを訪ねて見ませんか。

平成21年度「国有林モニター」募集中

林野庁四国森林管理局では、もっと国有林について知りたいという国民の皆様に対し、国有林の役割や業務についてご理解いただき、国有林の管理・経営に皆様の声を役立てていく一環といたしまして、「国有林モニター」を募集いたします。



平成20年度第1回勉強会(徳島県三好市)

●モニターの内容

- ①国有林に関するアンケートへの回答
- ②国有林に関するご意見やご提言などの報告
- ③国有林モニター会議、勉強会への出席

●応募資格

徳島県、香川県、愛媛県及び高知県にお住まいの国有林に関心を有する20歳以上の方(ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長及び常勤の国家公務員並びに前年度にモニターとなった者は除く)

●募集人員 26名

●依頼期間 平成21年4月から平成22年3月まで

- 応募方法 官製葉書、FAX又はEメールで氏名(フリガナ)、性別、生年月日、年齢、住所(郵便番号)、電話番号、職業のほか、「国有林モニターを知ったきっかけ」を具体的に記入ください。また、「国有林モニターに応募する理由」を100字程度でまとめて応募ください。

- 応募先 四国森林管理局「国有林モニター」係
- ①郵送：〒780-8528 高知市丸ノ内1丁目3番30号
 - ②FAX：088-821-2025
 - ③Eメール：shikoku_kikaku@rinya.maff.go.jp



- 募集期限 平成21年1月12日(月)当日消印有効

- 発表 選考結果は平成21年3月頃、国有林モニターになっていた方へ依頼状の発送をもってお知らせいたします。



平成20年度第2回勉強会(高知県香美市、高知市)

●その他

- ・国有林モニターになっていただいた方には、国有林の事業概要やイベント情報などを定期的に送付いたします。
- ・国有林モニター会議又は勉強会にご参加頂いた方には、当方の規定に基づき旅費を支給いたします。
- ・国有林モニターとして提出いただいたご意見やご要望には、個別にお答えすることはできませんので、あらかじめご了承ください。
- ・国有林モニターは、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、国有林の役割や業務について情報を提供し、併せてご意見等をいただくものですので、既に国有林についてご存知の方(例：国有林OB、業界関係者、森林・林業担当の自治体職員、国有林に要望等の活動を行われた方、これまで国有林モニターとなった方等)におかれましては、お断りさせていただく場合があります。また、応募状況によっては、抽選とさせていただきますことを、あらかじめご了承ください。
- ・選定結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。
- ・個人情報については厳重に管理するとともに、国有林モニターに関する利用目的以外に使用いたしません。

お問い合わせ 〒780-8528 高知市丸ノ内1丁目3番30号 四国森林管理局「国有林モニター」係
Tel 088-821-2160 <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp/>